

WINDS CAFÉ 342 in 目黒

箏の音で楽しんで

樋口美佐子

矢野加奈子 柿原百代

谷井琴子 阿佐美穂芽

2025年6月15日（日）15時開演

芸術家の家スタジオ

【箏の音で楽しんで】

1. みだれ [八橋検校作曲]

箏独奏 樋口美佐子

箏の原点である八橋検校の作といわれる古典をまずは聴いていただきます。「六段」を作曲した八橋検校は 1685 年に七十二歳で亡くなったが、この年は、西洋ではバッハ、ヘンデルの二大巨匠が生まれた年であります。この曲は、「六段」「八段」などと同じく『段物』あるいは『調べ物』という部類に入る、歌のない箏独奏曲です。一般に『段物』はいくつかの段からできていて、各々の段がすべて五十二拍子に統一され、曲の速さが段を追って次第に速くなり、最後の段の終わりの句でゆっくり落ち着いて終わるのであるが、この「みだれ」は、その名が示すように『段物』ではあるものの、各々の段の拍数が一定でなく、速度も途中でゆっくりになったりと自由に動いていきます。

2. ヴィヴァルディ 四季より「春」

ソロ 樋口美佐子

一箏	柿原百代	二箏	矢野加奈子
三箏	阿佐美穂芽	十七絃	谷井琴子

普段の邦楽の演奏会ではあまり演目に上がらない曲ですが、WINDS CAFE ではなんでも好きな曲を弾いていいよ～とのことですので。。ヴァイオリン協奏曲を箏で演奏できることにワクワクしてます(笑)

3. 讃歌 [沢井忠夫作曲] 1978 年

箏独奏 樋口美佐子

讃歌は、自然の美 人間の愛 芸術の深さに触れた時におこり、人の内に昇華され外に向かって溢れてやがてそこに夢と詩が生まれる、そういう心の動きを音にたくしたものである。

(作曲者解説)

4. 北国雪賦 かまくら ぼんてん [長沢勝俊作曲] 1982 年

ソロ 樋口美佐子

一箏 阿佐美穂芽 二箏 矢野加奈子

十七絃 谷井琴子 三絃 柿原百代

東北地方に古くから伝わる雪のまつりに光をあて、雪とそれに深くかわりながら生きる人々の哀感をえがいたものです。

一楽章「かまくら」は2月15、16日に行われる小正月の行事。雪空に水神様を祭り、その年の豊年を祈ります。笛や太鼓の音も聞こえない、ただ雪と光の静寂の中にこそ、かえって、さまざまな音の幻想が無限に広がっていきます。

二楽章「ぼんてん」は大きな御幣を神社に奉納する勇壮な行事。雪に閉ざされた人々のこの日にかけたエネルギーの昂揚と魂の躍動が感動的です。

(作曲者解説)